

対馬市長
財部 能成 様

対馬のツシマウラボシシジミの保全に関わる要望書

国内では対馬のみに生息し、日本の固有亜種でもあるチョウの一種ツシマウラボシシジミは、環境省レッドリストで「絶滅危惧Ⅱ類」にランクされております。ところが、わずかここ数年で、国内産チョウ類約 240 種のうち最も絶滅の可能性の高いチョウとなるに至りました。その主要因は、対馬では特に近年問題視されているシカ等の害獣による食害（過剰採食）であります。

現在の対馬は、本種の食草である林床性のヌスビトハギ類（マメ科）が食害されているだけでなく、チョウの蜜源となる訪花植物もほとんど見られない状況となっており、本来の植生は著しく破壊されております。

本種は元々、対馬北部の広い範囲に生息しておりました。しかし、現在残されている生息地はわずか1カ所で、極めて狭い範囲のみに限られております。今のままでは害獣、特にシカが侵入して壊滅するか、あるいは対馬市の天然記念物であるにも関わらず密猟者が生息地を見つけて採集するだけでも、瞬時に絶滅に追い込まれる危険な状況です。

また、林床を低空かつ緩やかに飛翔するとともに小さなチョウですが、年に5世代程度を繰り返し、時期によって生息地を少しずつ変えるため、生息範囲が広がらないと、年間を通じて生息できない難しい点もございます。つまり、複数ヶ所の整った条件のうちの一ヶ所の環境が悪化するだけで、一地域の個体群は継続発生できずに絶滅が起こります。

その一方で、本種の累代飼育および系統維持は決して難しくなく、繁殖技術はほぼ確立しており、施設や器具を整えば絶滅が防げる手段はございます。

これらのことから、以下の点を要望します。

- 1) 生息地および今後の生息候補地における害獣の防御柵の設置および生息地の復元
- 2) 人工繁殖を恒常的にできる施設と人員の設置（または相当施設への依頼）
- 3) 食餌植物および蜜源植物を増殖できる施設と人員の確保
- 4) 継続的なモニタリングシステムの確立
- 5) 密猟者に対する対策（警察や住民への広報等）

これらの対策を実施することができれば、もともと増殖能力の高い昆虫類のため、一定の地域で復活できる可能性もありますが、もとの生息状況に復元し安定した状況にするためには、対馬全体での環境の保全を地道に進めていくことが必要です。また、特に防御柵の設置は本種だけでなく、絶滅に追い込まれていると考えられる他の動植物の保全対策にも極めて有効です。その一方で、もしここで早急に手を打たなければ、1~2年以内での本種の絶滅は免れません。

これは単に国内産チョウ類初の絶滅種を生み出すだけでなく、対馬の生物群の崩壊を意味し、ひいては国内全体の生物相破壊の象徴となりうる危険性をはらんでおります。それだけ、シカ等の害獣による食害は切迫した脅威となっております。

補足としまして、国内では唯一、対馬で安定的に生息していたタイワンモンシロチョウも、ほぼ

絶滅した状況となっています。本種は、かつて道脇にどこにでも生えていたミチバタガラシやイヌガラシ、ナズナ類などを利用していましたが、これらも同様に害獣による被害を受けています。タイワンモンシロチョウ自体は、国内では他に八重山にも生息しておりますが、対馬産は朝鮮半島産と同じ亜種に属するものの、国内では対馬にのみ生息していた亜種でした。国内産チョウ類の亜種単位での絶滅は、数少ない事例の一つとなります。

このタイワンモンシロチョウは、すでに成虫を見ることも困難となっており、壊滅状態に気付いた際は、時すでに遅く、現在では、保全対策を進めることもできない状況となっています。

このような理由から、日本鱗翅学会および日本チョウ類保全協会は対馬におけるツシマウラボシシジミの早急な保全対策が必要だと考えます。また、合わせて同島の生態系に影響を及ぼす害獣の個体群密度を植生が回復する程度の適正な頭数に抑えて、健全な生態系が維持されていた頃の状況にまで回復させることが重要だと考えます。

つきましては、貴職におかれましては、本件に関して何卒ご尽力賜りますようお願い申し上げます。なお、本学会および協会は、専門家集団としていつでもご協力させて頂く用意がございますことを最後に申し添えます。

2014年2月10日

日本鱗翅学会

会長 石井 実

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学 大学院生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻

Tel. 072-254-9412; Fax. 072-254-9413



日本チョウ類保全協会

代表理事 藤井 恒

〒140-0014 東京都品川区大井1-36-1-301

Tel. 03-3775-7006



担当：日本鱗翅学会自然保護委員長 矢後 勝也

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学 総合研究博物館

Tel. 03-5841-8455; Fax. 03-5841-8451

E-mail: myago@um.u-tokyo.ac.jp



(本件に関わる連絡の必要がありましたら、上記担当自然保護委員長宛にお願い致します。)